【様式第４号】

令和８年度　保土ケ谷区障害者地域自立支援協議会　まちで暮らすネットワーク部会 強度行動障害ワーキンググループ　第４回　議事録（HP 用）	
日　　時	令和８年１０月８日（木）１６：４０～１８：１０
開催場所	ほどがや地域活動ホームゆめ　２Ｆボランティアルーム
出 席 者	恵和青年寮、十愛病院、夢２１ホーム、あおばの虹（あさぞら）、基幹相談２名、保土ケ谷区役所/高齢障害支援課、光の丘相談室、同愛会てらん広場、たっちほどがや
欠 席 者	
開催形態	公開（傍聴人：　　名）　・　非公開
議　　題	資料 ・強度行動障害ワーキンググループ　実施計画書（当初案）：恵和 ・参加申し込みフォーム：恵和 ・座学　資料「氷山モデルと支援の実際」、演習資料（①氷山モデルシート ②スキャタープロット ③原因分析シート）：あおばの虹 ・チラシ案：恵和 **１）保土ヶ谷版・人材育成プログラム「継続型実践ベースの事例検討会」** **〇「継続型実践ベースの事例検討会」スケジュール案について** 目的：➡共有のみ 強度行動障害を持つ人への支援について、事業所間のネットワークを強化し、地域全体で支える基盤を構築する。 ★氷山モデルを用い、一人の事例を年間で追うことで、本人主体の理解と支援の組み立てを深めるのが研修の目標。 ★ベースとして「特性配慮が必要である」ということを、参加者全体で体感できる形にする。 運営方針 ➡共有のみ ①　事務局によるマネジメントを基本とし、事例検討、施設見学、ネットワーク強化を行う。 ②　支援手法を限定せず、多様な取り組みを共有し合う場づくりを目指す。 ③　【追記】 年間で単一事例を追う想定だったが、講師陣の議論を踏まえ、複数事例を取り上げる柔軟な変更可能性あり。 参加者について ２０名⇒１５名に絞る。（変更） 強度行動障害の基礎研修　受講済の支援者であり、２日開催の両日とも参加できる方を必須条件とする。（確認した）

事例の取り上げ方

【パターン１】

１回目：グループワークの中で、困り感を共有⇒講義（座学）⇒
参加者が各自、事業所に持ち帰って、自事業所のケースで実践してみる
（1 か月程度の実践期間を設ける）

２回目：各参加者がそれぞれ実践してみたが、想定した通りにいかなかった…
もしくは想定外の事態となり、現場対応に困った事例をピックアップ。
※スキャッタープロットのフォーマットに乗せやすいケースが良い。

座学の内容、時間配分について

・（講師より）

＊障害の特性は脳の情報処理の違いによるものであり、「直す」のではなく「環境調整」で対応すべきだと強調したい。

＊環境要因は音、匂い、職員配置など多岐に渡るため、スキャッタープロットで網羅的に把握し、個別ルールで対応する必要性を座学で伝えたい。また、本人の得意なことを伸ばすことや、マズローの欲求階層の考えにも触れていく。

＊基本的な安心感を持てないのに、その次の段階に進もうとしても、本人の内面（欲求）が追い付かないので、そのような支援だと上手くいかないことも伝えていく。

・（意見交換／アイデア出し）

＊1 回目の座学では、氷山モデルと環境調整の考え方を中心に解説。
スキャッタープロット活用と個別対応（特別ルール）の重要性を強調する

＊取り上げる事例の特性把握には、大判の特性チェックシートを使用する。

＊詳細なタイムテーブルは作成せず、2 時間枠の中でタイムキーパーが進行状況を共有しながら進める。

２日間の日程、各回の構成

~~●勉強会・第１回＝11 月２日（月）18～20 時~~ 延期とする

●勉強会・第１回＝12月２日（月）18～20 時

【会場】地活ゆめ２F 食堂　※17:30～20:30 で予約済み

【内容】①氷山モデルについて座学（講師より）

②各参加者が学んだ内容を持ち帰り、実践するための準備作業、第２回に向けての各自ワークの説明

★支援のアイデア出しまでは行わない（1 回目では）

	講義内容について 講師より、資料（レジメ）をもとに説明した。 ＊スキャッタープロットの伝え方について: ①環境要因の見落としをしないように説明を行なう。 ②ご本人の行動に影響を与えうる環境要因（音、声かけ、職員配置、匂い、気温、他者の服装など）を網羅的に記録するように強調。 ③たとえば: 柔軟剤の匂いや他者の服の素材が行動のトリガーになりうるため、このような感覚過敏に関わる項目を見落とさないように説明したい。 ＊現場における個別対応の設定について（座学での説明注意点） ① 事前に取り決めたルールが形骸化し、本人や関係者に浸透しないように注意。 ② ルールを共有（支援者や本人に対して）する時、短く具体的な言葉で。本人や関係者がいつでも確認できるよう視覚化して共有することが効果的。 ③ 指示が多すぎ、本人が混乱する場合。 ➡音声（話し言葉）での指示を減らし、絵カードなどの視覚的な手がかりに置き換えるルールを設定するなど、具体的な方法を例示。 〇各参加者のワーク＝11 月中　各自、事業所に戻り実践（データ分析含む） ●勉強会・第2回＝1 月 26日（火）18～20 時　　※日程変更 【会場】地活ゆめ2F 食堂　※17:30～20:30 で予約済み 【内容】①各参加者からの実践報告を共有　②つまづいた事例や場面、分からなかったことなどを共有、意見交換 〇ワーキング会議＝12 月 10 日（木）16:30～18:00 【会場】地活ゆめ2F ボラルーム 【内容】勉強会の振り返り、次年度開催に向けて 〇ワーキング会議＜★提案＞＝2 月 10 日（水）15:45～17:15 【会場】区役所　地下会議室 【内容】勉強会ふりかえり、次年度の年間計画 （2）保土ヶ谷版・人材育成プログラム 「継続型実践ベースの事例検討会（勉強会）　参加者募集、PR について ・定員　20 名➡15 名に変更。

・先着順に受け付けるのではなく、企画者側で受講生を選考し、
受講の可否をメールにて、応募者全員へ通知する。**（その旨、募集チラシにも記載）**

・ 応募要件は「（強度行動障害の）基礎研修受講済み」かつ、「2 日間日程の両日とも参加可能」なこと。（※これもチラシに明記）

・周知（参加者募集）は
①協議会ホームページ
②協議会登録者への一斉メール
③強行ワーキングの各担当者による個別声かけ　を併用して行う。

（3）事例検討会の準備と役割分担について

項　目	担当者	いつまでに/備考
①会場予約	基幹	済
②当日資料 （ワークシート、座学資料）	あおばの虹、恵和	※当日に向けて、本日打ち合わせを受け、修正する
③保土ケ谷自立協ＨＰへＰＲ	基幹	※内容確定次第、掲載
④ＰＲチラシ　作成	恵和	10/26 までに配布 ※作成期限：10/23 まで
⑤参加の呼びかけ 自立協（GH/通所/児童等）	➡メンバー全員 ➡基幹相談	➡個別に（10/26～） ➡メール（10/26～）
⑥google フォーム作成	恵和	Google フォーム ※作成期限：10/23 まで
⑦google フォームの管理、 受講生の確定	恵和・基幹 ※フォーム共有する	**申込〆切：11/13** **⇒11/16 の週で選定**
⑧参加者名簿（グループ分け）		**３グループ想定**
⑨参加可否の通知（メール）	基幹	
⑩当日会場での役割分担		１２/2（1 回目）
・受付（名簿）		
・会場設営		
・資料の印刷		
・グループワークあるなら ファシリテーター（人数）	各グループに１名配置（３人、要調整）	
・司会進行	恵和	
・講師	あおばの虹	
・必要物品 （プロジェクター　他）		

（３）施設見学について

① R8 年９月見学会　GH ひなた空　見学会を実施　※共有のみ

- 日時: ９月 16 日 13 時 30 分～
- ワーキングメンバー以外の参加者

①エターナル GH　②リビットはうす横浜（２名）　③たっちほどがや

【WG メンバー：十愛病院、夢 21 ホーム、基幹相談、区役所、てらん広場】

- 現地案内　グループホーム管理者、支援員

② R9年１月見学会について

- **中井やまゆり園、津久井やまゆり園について見学したい。**
- 夢２１ホーム＝各施設に連絡調整をおこなう。

~~➡１１月２４日（火）の午後開催で、中井やまゆり園に依頼する~~

➡先方都合が悪く、12 月以降で再調整

（４）今後のスケジュール（最後にまとめて確認）

★次回ワーキング（定例会議）：令和８年１２月１０日（木）16:30～18:00

場所：　地域活動ホームゆめ　２Ｆボランティアルーム

12/10 のワーキングでは、勉強会１回目の振り返りと２回目の準備について話し合う。各自の役割分担の検討や講座内容の検討など。

★「継続型実践ベースの事例検討会」;（２回シリーズ）

第１回　令和８年**１２月２日（水）**　第２回　**１月２６日（火）**

いずれも、18:00～20:00　場所：地域活動ホームゆめ　２Ｆ食堂

★次々回ワーキング（定例会）：令和９年２月１０日（水）

➡「まちで暮らすネットワーク部会」定例会終了後。

15:45～17:15 の予定で行う　場所：保土ケ谷区役所　地下会議室

①2 回シリーズの勉強会　振り返り

②次年度のワーキングとしての計画づくり

（５）その他

★あさぞらケースの件

１０月２０日１６時より、あさぞらにて T-TAP 検査を実施。

見学希望者はあおばの虹（あさぞら）さんに直接連絡してください。

	★区主催強行連絡会の件 昨年度に初開催したが、今年も実施する方向で、区役所内で検討中。 区（高齢・障害支援課）より個別に連絡や相談をしたい